

一般国道191号(山陰自動車道) 大井・萩道路に係る新規事業採択時評価

- ・現道の課題箇所を回避し、災害時の救援活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを確保。
- ・高次救急医療機関へのアクセス性向上により、救急搬送などの救急医療活動を支援。
- ・主要な観光地間のアクセス性の向上により、広域周遊観光の拡大を支援。

1. 事業概要



図1 広域図

起 終 点: 山口県萩市椿～萩市大井

延長等: 11.1km
(第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)

全体事業費: 約660億円

計画交通量: 約12,500～13,800台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約6,800台/日	約2,400台/日	約4,600台/日

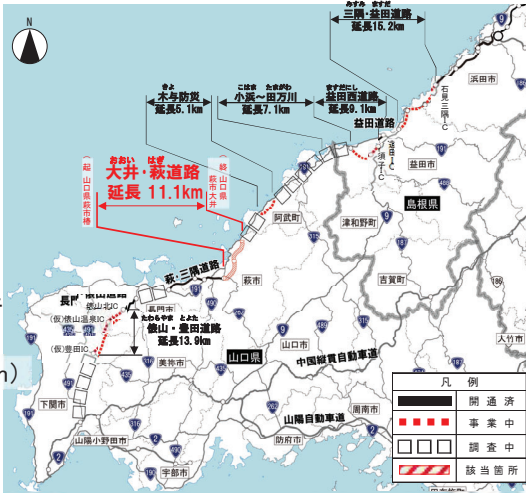


図2 事業位置図

2. 課題

①災害に対し脆弱な道路ネットワーク

- ・国道191号は、山口県萩市と阿武町及び島根県益田市を最短で結ぶ幹線道路であるが、急峻な山地と海岸に挟まれ越波や土砂災害警戒区域などの危険箇所が存在。災害発生時には代替路がないため広域迂回(通常約4倍、平成18年9月18日の越波災害時の迂回)が必要(図3、図4)。
- ・過去10年間では、台風接近時や冬期等において越波や落石による通行規制が5回発生しており、延べ73時間の通行規制が発生。(写真1、図3)



図3 国道191号沿線の災害リスク



写真1 越波の状況

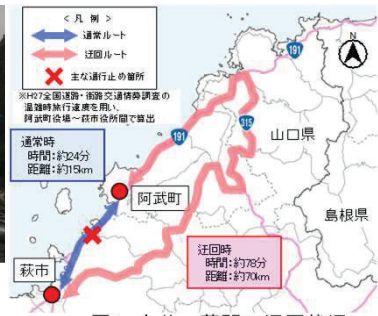
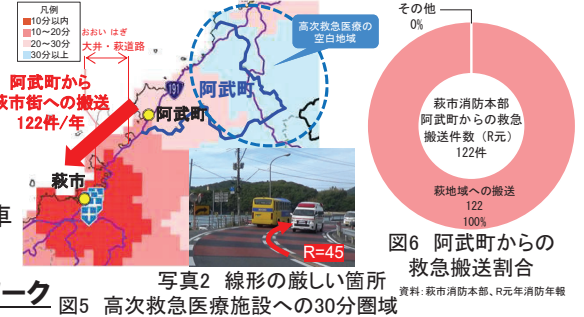


図4 大井～萩間の迂回状況

②高次救急医療機関へのアクセス

- ・阿武町には高次救急医療機関がなく、重篤患者の救急搬送を萩市内の二次救急医療機関に依存。(図5、図6)
- ・現道課題の多い不安定な搬送ルートを利用せざるを得ない状況であり、線形の厳しい箇所等の緊急車両の走行時には、患者への負担が懸念。(写真2)



③広域周遊観光に必要な不可欠な道路ネットワーク

- ・山口県と島根県は、世界遺産を有する萩市と日本遺産を有する島根県西部の益田市及び津和野町の連携による広域周遊観光の促進に取り組んでいるが、観光客の周遊範囲は拡大していない。地域間の更なる交流促進が課題。(図7、図8)

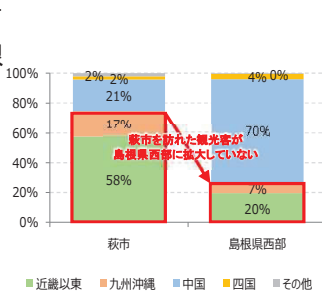


図8 島根県西部(益田市・津和野町)～萩市の観光状況

3. 整備効果

効果1 信頼性の高い道路ネットワークの確保 [◎]

- ・災害時の交通障害や道路寸断による広域迂回を解消。
- 萩市役所～阿武町役場の広域迂回(災害時) 【現況】78分 ⇒ 【整備後】21分

効果2 救急医療活動の支援 [◎]

- ・高次救急医療機関への搬送30分圏域の拡大。
- ・緊急搬送時の走行性、安全性が向上。
- 阿武町における搬送30分圏域の割合 【現況】71% ⇒ 【整備後】82%
- 救急搬送時に通過する線形の厳しい箇所 【現況】20箇所 ⇒ 【整備後】0箇所

効果3 広域周遊観光の拡大 [◎]

- ・移動時間の短縮により、広域周遊観光の拡大を支援。
- 萩市役所～益田市役所の移動時間の短縮 【現況】83分 ⇒ 【整備後】77分

■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR ^{※1}	総費用	総便益
1.3 (1.1)	5.9% (4.6%)	2,101億円 ^{※2} (502億円 ^{※2})	2,787億円 ^{※2} (564億円 ^{※2})

注) 上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果
 ※1: EIRR-経済的內部収益率 ※2: 基準年(令和2年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

■道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度		累積脆弱度の 変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
23 (4)	0.92[C] (0.93[C])	0.38[C] (0.93[C])	▲202.61 (▲13.54)	0.08 (0.06)	0.70 (0.00)	○

注) 上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果

